

小中学生における生成AI利用者の利用時留意点に基づく 類型化とその特性

○水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
宮原 祐一 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

小中学生が**安心、安全**に I C T を利活用する
G I G Aスクール構想の促進と課題の洗い出し

回数	1 回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目
時期	2018年11月	2019年11月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月	2025年11月
回答数	500	1000	1100	500	600	600	1300	1200
方式	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置
対象	関東	全国	全国	関東	関東	関東	全国	全国

調査時期	2025.11
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	全国 小中学生の親と子
標本抽出方法	層化二段抽出 性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数	1,200組（小中学生とその親）

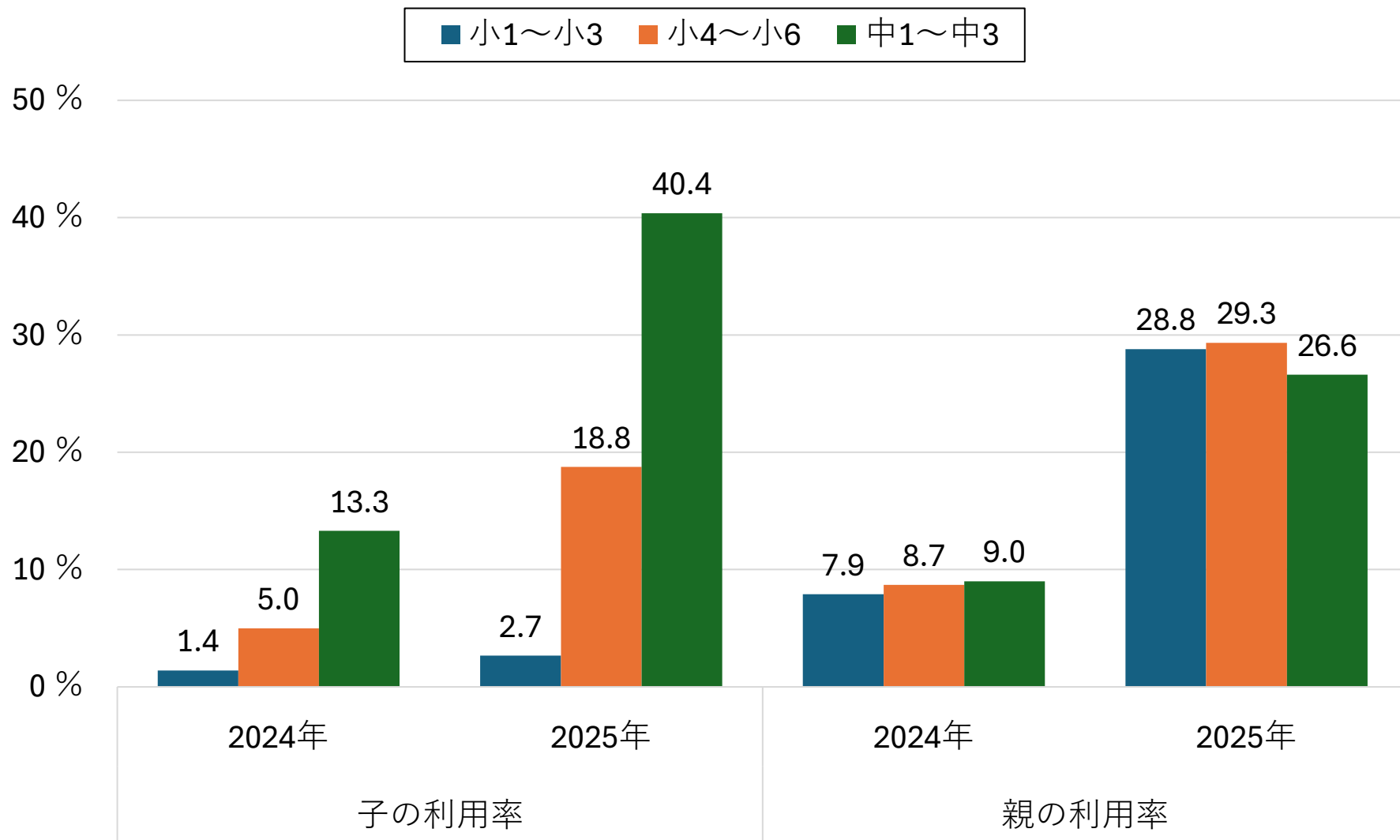
目的

小中学生の生成AI利用時の留意事項に基づき類型化を行う。
また、類型化した後に特性の分析を実施する。

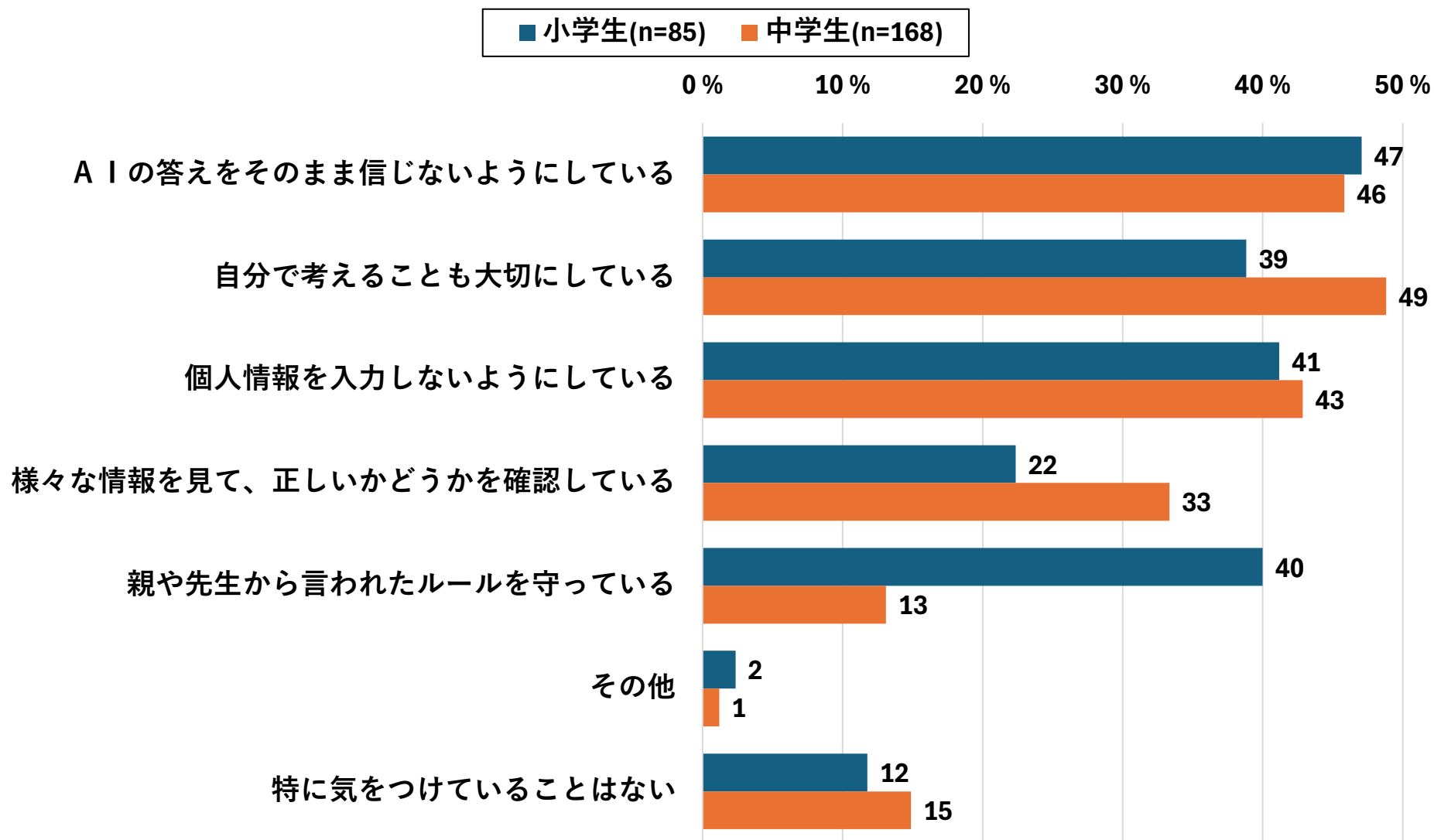
調査概要

調査時期	2025.11
調査方法	訪問留置法
調査対象	全国 小中学生
標本抽出方法	層化二段抽出法・性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数	1,200組（小中学生とその親） 分析対象：420組（中学生とその親）

中学生の利用率は前年と比べて27.1ポイント上昇した。
保護者の生成AI利用率を上回っており、また利用率の上昇幅も保護者より大きい



小中学生ともに「AIの答えをそのまま信じない」「個人情報を入力しない」が4割を超える。
また、小学生は「親や先生から言われたルールを守る」、中学生は「自分で考えることを大切にしている」も4割を超える



2 因子「批判的情報処理」「情報モラル」を抽出

	批判的情 報処理	情報モラ ル行動
いろいろな情報を見て、正しいかどうかを確認している	0.61	-0.10
自分で考えることも大切にしている	0.60	-0.01
A I の答えをそのまま信じないようにしている	0.39	0.20
親や先生から言われたルールを守っている	-0.11	0.56
個人情報を入力しないようにしている	0.16	0.41

因子抽出法: 最尤法

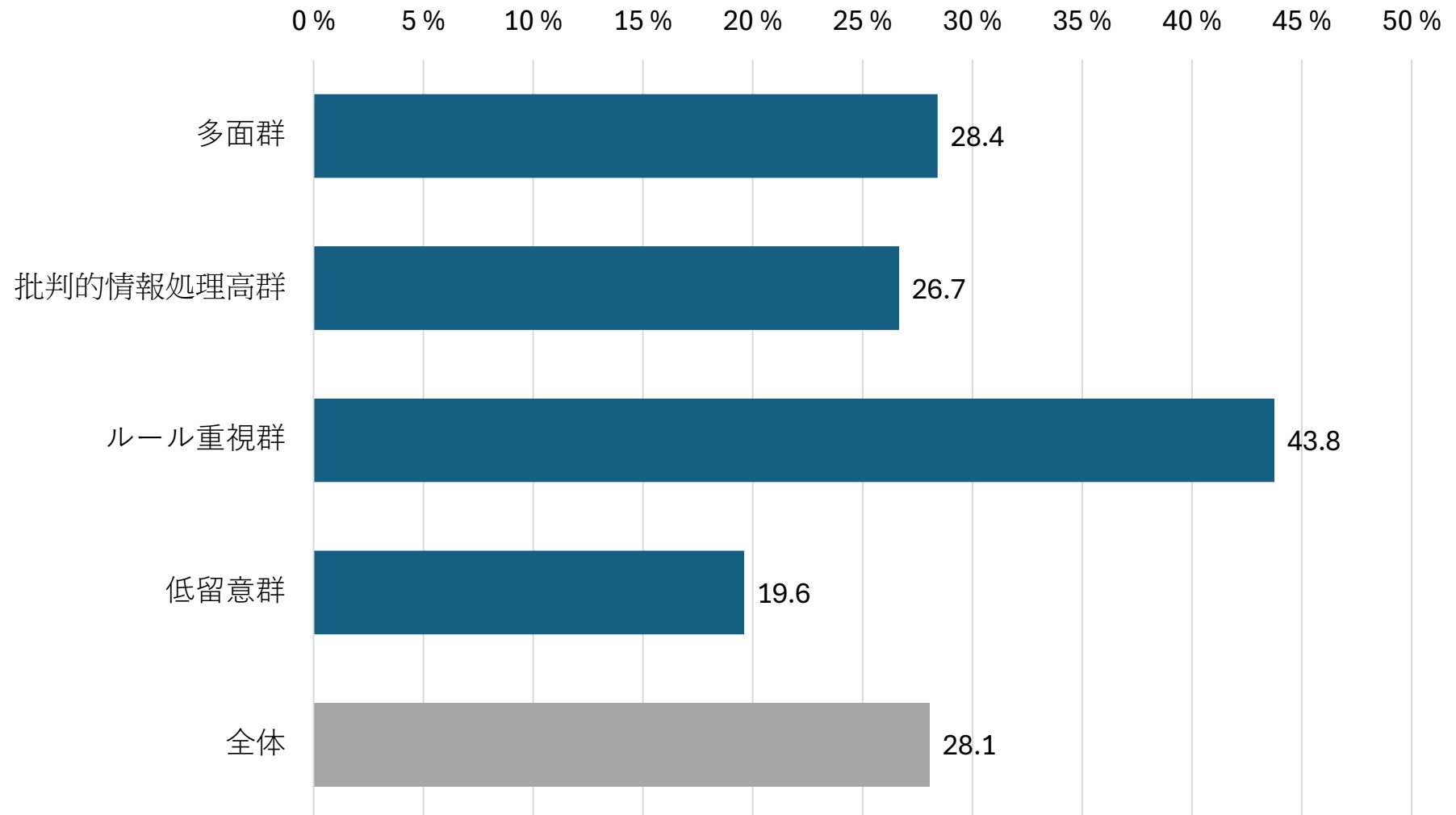
回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

a 3 回の反復で回転が収束しました。

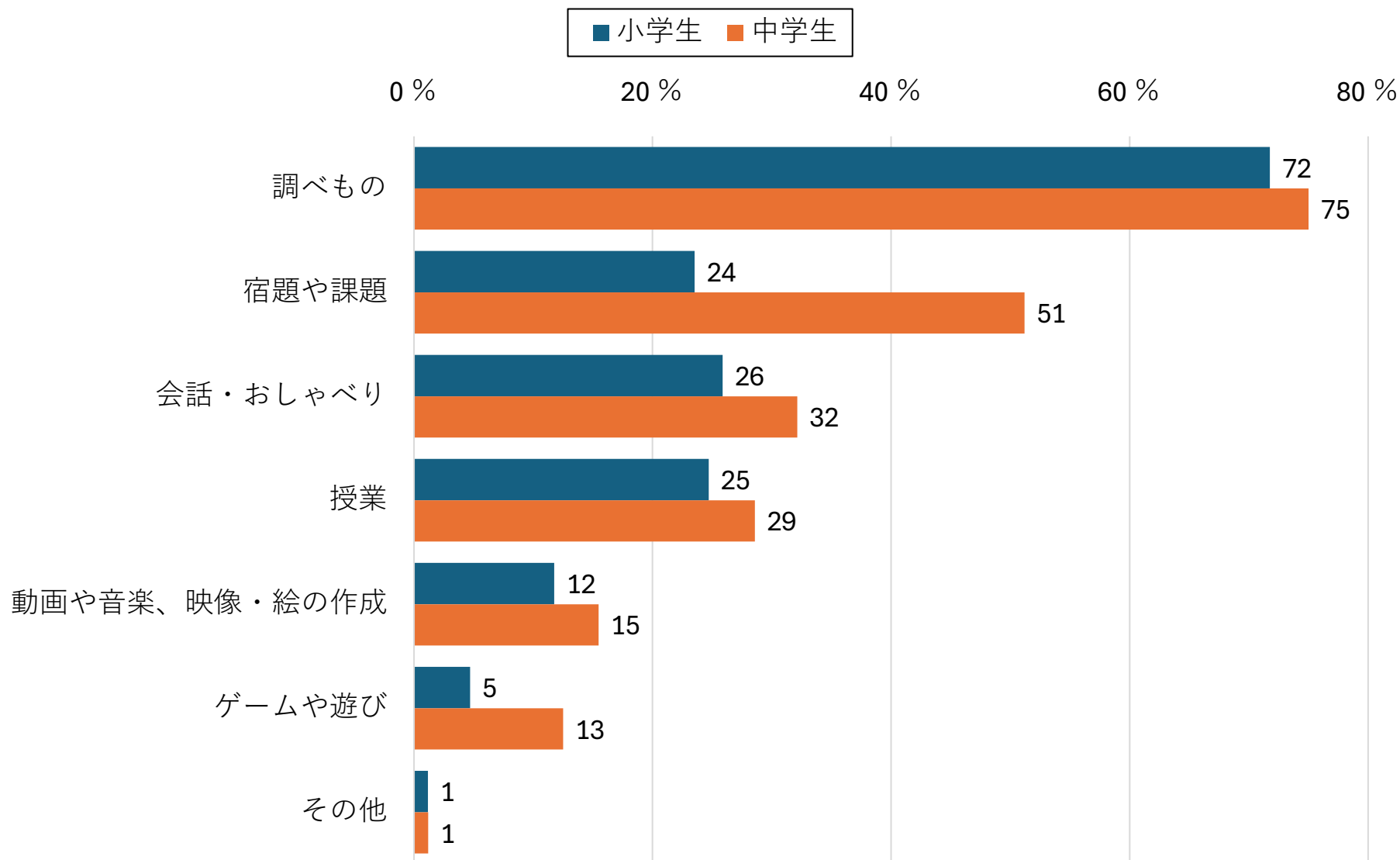
両因子が高い「多面群」、片方だけが高い「批判的情報処理高群」「ルール重視群」2 群、
両因子が低い「低留意群」に分ける

	多面群	批判的情報処 理高群	ルール重視 群	低留意群	
批判的情報処理	○	○	×	×	
情報モラル行動	○	×	○	×	
回答数	95	75	32	51	253
構成比	38	30	13	20	
中学生比	64	75	56	65	66
男子比	37	44	44	55	57

「ルール重視群」は毎日利用する割合が高い



調べものを行う割合は小中学生ともに7割を超える。中学生は「宿題や課題」での利用も5割を超える。



「娯楽」「探索」2 因子を抽出

	娯楽	探索
ゲームや遊びで使った	0.84	-0.06
動画や音楽、映像・絵を作るために使った	0.40	0.28
会話・おしゃべりをするために使った	0.37	-0.09
宿題や課題をする時に使った	-0.04	0.80
学校の授業の中で使った	0.09	0.38
調べものに使った	-0.15	0.31

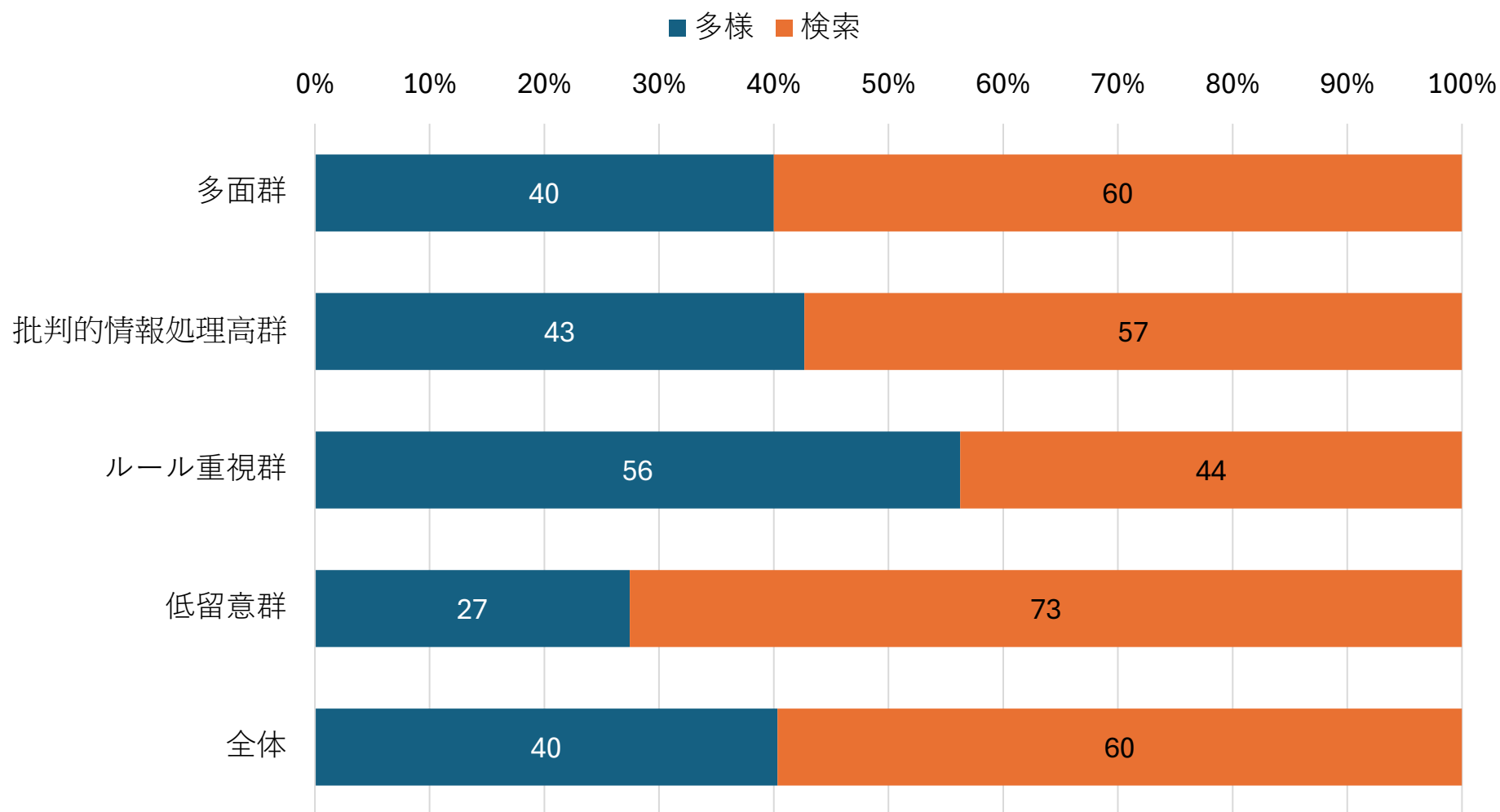
因子抽出法: 最尤法

回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

因子分析を参考に3つの群に分ける

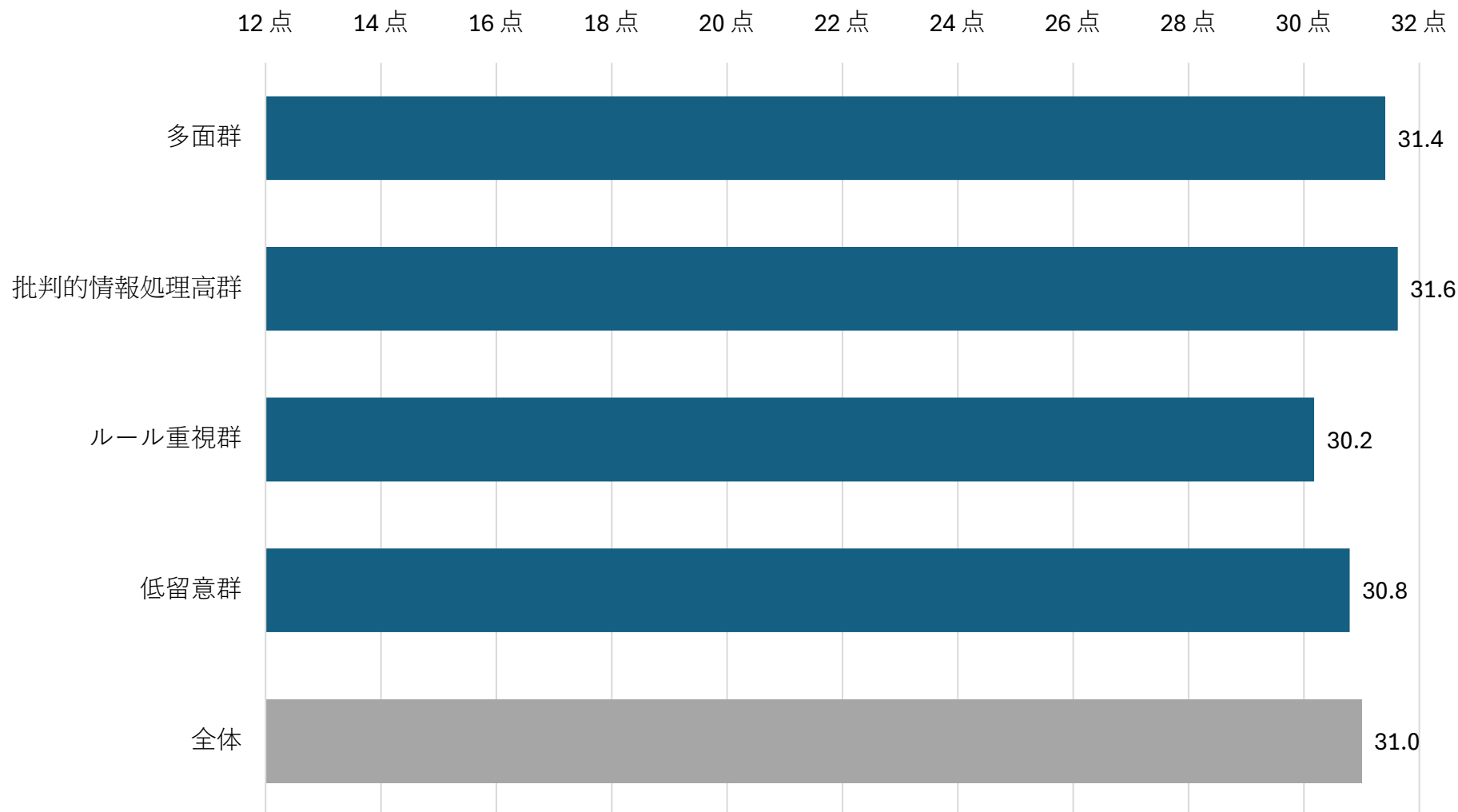
		「ゲームや遊び」 「動画・音楽・映像の作成」 「会話」	「宿題や課題」 「学校の授業」 「調べもの」	構成比 回答数
1 群	多方面	○	△ (88.6%は実施)	8.4% 35人
2 群	検索	×	○	27.6% 115人
3 群	未利用	×	×	64.0% 267人

「ルール重視群」は多様、「低留意群」は検索の割合が高い

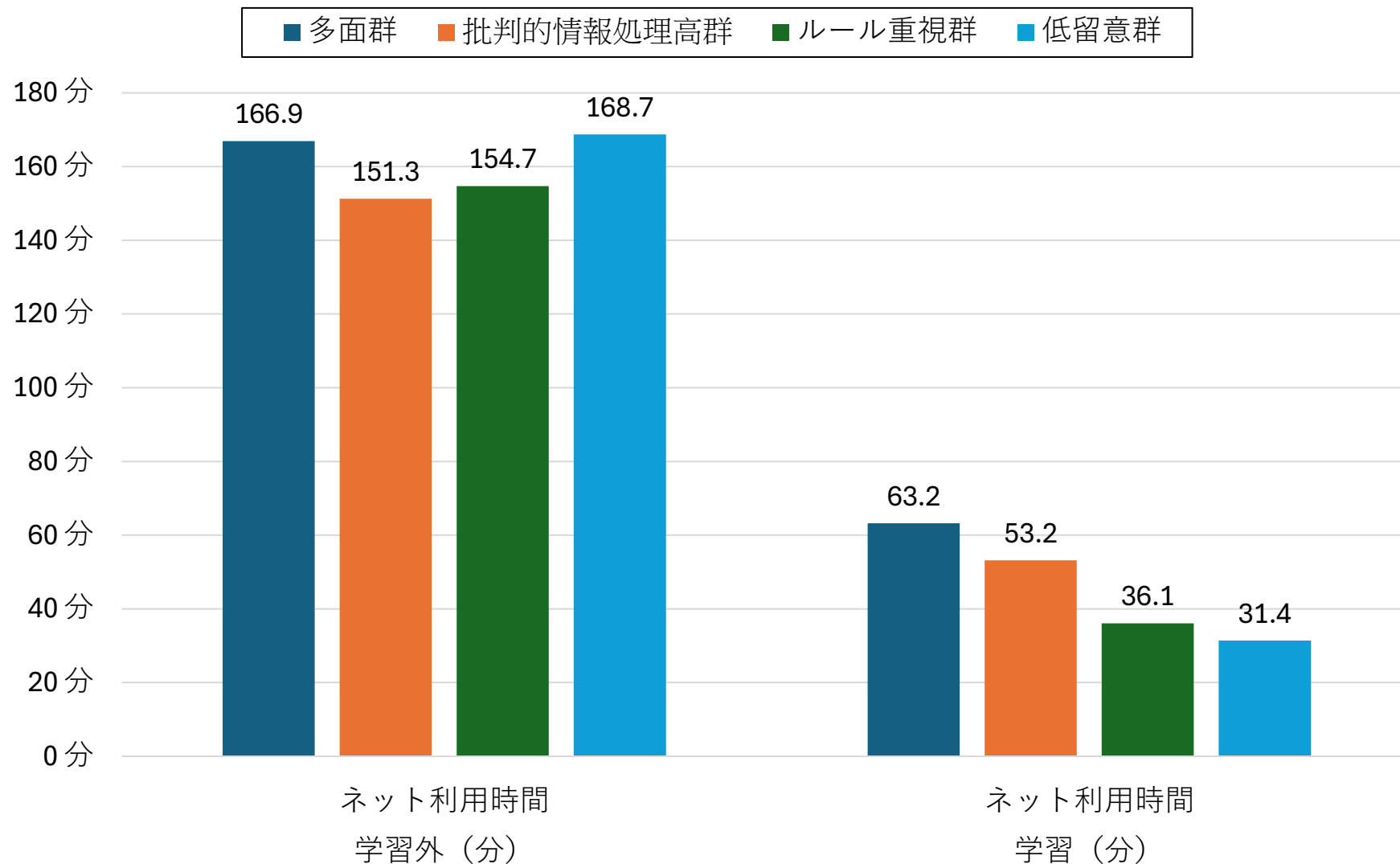


情報活用実践力	収集力	a. わからない事があれば、辞書・ネット等で調べる
		b. ニュースを、あまり見ないほうだ (※)
	判断力	c. 人の噂をすぐ信じるほうだ (※)
		d. 新聞やテレビ、ネットで言われること、書かれていることを、すぐ信じるほうである (※)
	表現力	e. 調べたことを整理するとき、文章だけでなく図や表も活用するよう心がけている
		f. 集めた資料を整理するのは苦手である (※)
	処理力	g. 意見がたくさんあっても、うまくまとめることができる
		h. 筆者が一番言いたいことを把握するのは苦手である (※)
	創造力	i. 人の意見に流されやすい方である (※)
		j. 自分なりの考えをもつようにしている
	発信・伝達力	k. わかりやすい文を書くのは苦手である (※)
		l. 人に伝える時、なるべく難しい言葉を使わないように気をつけている

「多面群」「批判的情報処理高群」がやや高く、「ルール重視群」はやや低い傾向。



「多面群」は学習でのネット利用時間が長い。「ルール重視群」「低留意群」は学習でのネット利用時間が短い。



成長に伴い親や教師から与えられたルールへの依存が弱まった場合においても、「批判的情報処理」の力を備えているかが、適切な生成AI利用を継続する上で重要な要素となる可能性

	多面群	批判的情報処理高群	ルール重視群	低留意群
生成AI利用頻度			多い	少ない
生成AI利用用途			多様	検索
情報活用実践力	やや高い	やや高い	やや低い	
ネット利用時間 学習外（分）	166.9	151.3	154.7	168.7
ネット利用時間 学習（分）	63.2	53.2	36.1	31.4

NTTドコモ モバイル社会研究所のご紹介

- ・自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の実態を「社会調査」の手法で研究・分析
- ・東大名誉教授の廣瀬通孝所長の指導の下、社外の有識者3名を理事に迎え、様々な観点から調査を実施
- ・研究成果をモバイル社会研究所のウェブサイト・書籍(モバイル社会白書)、学会等で社会へ発信

【主な研究テーマ】

2010年から毎年実施している「モバイル動向調査(基礎調査)」に加え、時流に合わせた「ライフスタイルを軸とした個別調査」を実施



【組織】

< 理事会 >

所長／理事 長

廣瀬 通孝
東京工科大学 教授
東京大学 名誉教授



理 事

桑津 浩太郎
立命館大学大学院 客員教授
(元 野村総合研究所
研究理事未来開発センター長)



是永 諭
立教大学社会学部 教授
(メディア社会学科)



松田 美佐
中央大学文学部 教授
(社会情報学専攻)
社会情報学専攻放送倫理・
番組向上機構(BPO)委員



ご清聴いただき、ありがとうございました